ニューズレター No.53

日本リメディアル教育学会(JADE)
http://www.jade-web.org/ 発行人 穂屋下 茂
2012(平成 24)年 2 月 15 日発行

日本リメディアル教育学会、ニューズレターNo.53 をお届けいたします。今回は、関東・甲信支部会 第 1 回研究大会についてお知らせいたします。

関東・甲信支部会第1回研究大会のお知らせ

日本リメディアル教育学会関東甲信越支部 第 1 回研究大会を以下の要領で開催いたします。

期日:2012 年 3 月 10 日
場所:早稲田大学 11 号館 4 階 会議室
参加費:無料
問合せ先:酒井志延(shien@cuc.ac.jp)
プログラム:

9:15 清田洋一(日本リメディアル教育学会関東甲信支部長)
9:20「学習者の知能特性を考慮した英語授業作り ー多重知能理論を応用した指導法ー」阿久津仁史(文京区立茗台中学校)
9:50「熟達度から見た楽しい英語授業に対する大学生の評価と経験度の違い」鈴木政浩(西武文理大学)
10:20 休憩
10:30「No Study Kids を対象に大学英語授業は成立するか」間中和歌江(東京純心女子大学), 中西千春(国立音楽大学)
11:00「自律的辞書スキル育成のために～チェックリスト開発の意義」中山夏恵(共愛学園前橋国際大学), 大崎さつき(創価大学)
11:30「英語多読とメタ認知ストラテジー」城一道子(江戸川大学)
12:00「英語リメディアル教育と課題」高階 悟(秋田県立大学)
12:30 休憩 (会場がある建物の1階にコンビニがあります)
13:30 日本リメディアル教育学会関東甲信越支部大会
司会 遠藤副支部長(清泉女子大学)
14:00「大学教育における初等教育の適用性ー授業における発問、板書計画、指導と評価ー」清水洋一(東京都公立小学校)
14:30「新入生の学習型コミュニケーション能力の測定と応用」小野 博(昭和大学), 穂屋下茂(佐賀大学), 工藤俊郎(大阪体育大学)
15:00 休憩
15:15 シンポジウム「リメディアル教育学会はどのように社会に貢献するか」
「学会誌編集長の立場から」金田 徹(関東学院大学)
「学会の社会貢献は学問の確立から」水町龍一(湘南工科大学)
「リメディアル教育の有効性を向上させるために」朝比奈なを(進路アドバイザー)
「今我々がすべきこと」鷲北貴史(LEC 東京リーガルマインド大学)
司会 小野 博(昭和大学, ファウンダー)
17:15 閉会の辞 清田洋一支部長(明星大学)
17:30 情報交換会(早稲田大学 楠亭)(酒井志延に当日申し込みのみ)

研究発表の概要を以下に記載します。

「学習者の知能特性を考慮した英語授業作り ー多重知能理論を応用した指導法ー」
阿久津仁史(文京区立茗台中学校)

Gardner(1999)の多重知能理論によれば、人間の知能は8つに分類され、各知能特性に合った授業作りが望まれるという。阿久津他(2010)では、Christison(2005)の日本語訳を用いて被験者の知能特性を測定し、被験者の知能特性に沿った英語指導を行った実験群の大学生は、通常の英語指導を行った統制群に比べ、意欲の点で有意差が見られた。しかし、知能特性に沿ったと考えられる指導法に、被験者の知能特性が正確に反映されていたかどうかは検証されていなかった。そこで、本研究では、阿久津(2012)で信頼性と妥当性が検証された Armstrong(2000)の質問紙を用いて学習者の知能特性を測定し、知能特性を考慮した英語指導法が、実際に学習者の知能特性を反映したものかどうかを検討することを目的とする。当日は、その結果を報告するとともに、知能特性を考慮した指導法の提案も行う。

「熟達度から見た楽しい英語授業に対する大学生の評価と経験度の違い」
鈴木政浩(西武文理大学)

楽しい英語授業は大切だとする見解と、楽しくても学力形成につながっていないという 2 つの見解がある。本研究は「楽しさ」の諸相に着目し、楽しい英語授業に関する質問紙調査のデータを学力上位群と下位群で比較した。上位群は過去に「安心して参加できる」「よくわかる」授業を受けた経験度が有意に高く、「よくわかる」授業に対して好印象を持っていることが明らかになった。この 2 つの「楽しさ」が学力形成の鍵を握っていると考えた。

「No Study Kids を対象に大学英語授業は成立するか」
間中和歌江(東京純心女子大学), 中西千春(国立音楽大学)

大学で No Study Kids(定義:中学・高校、塾、家庭でほとんど勉強せずに過ごしてきた学生)を対象に英語の語学的

知識を教え、4 技能のトレーニングしようとしても、授業がなかなか成立しない。教師とNo Study Kids が 90 分の授業を有意義に過ごすために、「考える意欲を育てる」「対話で教える」「評価方法を変える」という原則を設け、「英語の Trivia について考える」「身近な問題を取り上げ分析・考察する」「学習プロセスを見る」という実践を行った。本発表では、その報告をする。

「自律的辞書スキル育成のために～チェックリスト開発の意義」
中山夏恵(共愛学園前橋国際大学) 大崎さつき(創価大学)
大崎・中山 (2007) は、実証研究から、英和辞書の認知方略指導に一定の有効性を認めた。同時に、初級学習者が正確な検索結果にたどり着けない原因として、認知方略を統合して 活用するためのメタ認知的方略の欠如を指摘している。その解決策として、彼らは (2011) 自らの検索行動を省察する練習の必要性を指摘している。そこで、本発表では、学習者が自律的に辞書検索を行うための省察のためのツール開発の意義とその手法について検討したい。

「英語多読と認知ストラテジーの関係について」
城一道子(江戸川大学)
英語多読は、自分の読む本を自分で選択し、自分なりの理解を構築していくという学習形態が結果として学習を計画、モニター、評価するという学習者自身が主体となるメタ認知活動に従事させる(城一、2011)が、多読経験を積み重ねる過程で、読書スピードが速くなり読語数が伸びていく者、読んではいるけれど思うように読語数が伸びない者がいる。この違いをマクロレベルでの認知ストラテジー利用の観点から考察する。

「英語リメディアル教育と課題」
高階 悟(秋田県立大学)
2008 年、文科省の調査によれば、新入生を対象に高校レベルの補習授業を実施する大学は年々増加し、全体の 65%の大学が学力不足対策、リメディアル教育に取り組んでいる。秋田県立大学では、一部の学生の高校での理系科目の未履修問題、主要科目の学力不足が問題になり、2001 年より基礎学力を補うためのリメディアル教育を実施している。英語リメディアル教育の内容と成果を紹介する。リメディアル教育の課題について言及する。

「大学教育における初等教育の適用性 ー授業における発問、板書計画、指導と評価ー」
清水洋一(東京都公立小学校)
大学進学率が 50%を越えて久しい今現在、卒業までにどれほどの学力をつけされるか、が今現在の大学の課題である。その課題に立ち向かうためには、教師自身の教師力の向上が一番と考えられる。そこで、本報告では、人間教育を中心に、教育活動をしている初等教育の方法を大学教育に適用して、その可能性を探りたい。

「新入生の学習型コミュニケーション能力の測定と応用」
小野 博(昭和大学)、 穂屋下茂(佐賀大学)、工藤俊郎(大阪体育大学)
大学では新入生の学力低下を客観的に把握するためのプレースメントテストの実施や入学前・初年次・リメディアル教育が定着し始めているが、コミュニケーション能力の大幅な低下が大学の新たな問題となっている。経団連の調査では企業が「コミュニケーション能力の高い学生」を求めていることから、多くの大学は就活目的にその能力を高める方策を取り始めているが、その能力測定を行っているとの報告は少ない。筆者らは入学前・初年次・リメディル教育で成果を出し，充実した大学生活を送る上にもその能力が必要だと考えており、入学時に必要な能力を学習型コミュニケーション能力(SCA)と定義し、その測定方法の開発、高める講座の実施、能力を高める授業の研究を行っている。学会にコミュニケーション能力育成部会を発足させた経緯から、テスト開発の現状、大学調査結果、育成講座の紹介などをしたいと考えている。

世話人:清田洋一(支部長、明星大)
酒井志延(副会長、千葉商大)

会誌への論文等の投稿について

会誌『リメディアル教育研究』では、リメディアル教育に関する研究、教材や教授法の開発と評価、実践の報告などについての原稿を募集します。 投稿は本会の会員が筆頭者であるものに限ります(編集委員会が特に認めた場合は、非会員からの論文等を掲載することもあります)。 掲載の採否は、査読審査を経たのち、編集委員会において決定します。原稿料の支払い、掲載料の徴収はいたしません。

原稿執筆要項などの改変

原稿表紙、割付見本(執筆要項)などの投稿に必要なファイルが、2011 年 9 月 13 日から変更されております。さらに、掲載に至らせる原稿内容を作成するための一助として、原稿執筆ガイドラインを用意いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。

詳しくは、http://www.jade-web.org/jade/journal/journal.html をご覧ください。

【文責】寺田 貢